

# 第5次 東海村地域福祉計画

～ 解り合い 支え合い ともにつくる ここちよいムラ～



令和8年度～令和12年度  
東海村



# ごあいさつ

---

東海村長 山田 修



現在、我が国では、かつてないスピードで少子高齢化と人口減少が進んでいます。加えて、ライフスタイルや価値観の多様化、核家族化の進行などにより、地域社会における人間関係の希薄化が懸念され、孤立や生活困窮、虐待など、福祉ニーズは一層複雑化・深刻化しています。

本村におきましても、高齢化の進展や単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化、地域活動の担い手不足など、福祉を取り巻く環境は大きく変化しています。孤独・孤立の問題、介護と育児の両立、生活困窮など、個々の抱える課題は複雑かつ複合化しており、従来の行政サービスだけでは迅速な対応が難しいケースも増えています。こうした変化に対応し、誰もが自分らしく安心して暮らしていくためには、従来の分野別の福祉サービスに加え、地域ぐるみで支え合いながら課題を解決していく「地域福祉」の視点が不可欠であり、さらに、相談支援・生活支援・介護予防・子育て支援などを一体的に提供する包括的な支援体制の整備を進め、切れ目なく必要な支援につなげていくことが求められています。

このような状況の中、住み慣れた地域で、お互いが尊厳を持ち、いきいきと安心して、自立した生活を送ることができる「地域共生社会」の実現が急務となっています。行政には、よりきめ細やかな公的サービスの提供が求められますが、それだけでは生活課題の解決が難しい場面もあります。地域においても、住民の皆様や多様な団体・組織が連携し、地域の生活課題の解決に共に取り組むことが必要です。

第5次東海村地域福祉計画では、これまでの基盤を活かしつつ、制度や分野を超えて、人と人が「解り合い」、人と資源が世代や分野を超えて「つながり」、互いに「支え合う」ことで、多様な個性が交じり合いながら助け合う、温かみのある「ムラ」の実現を目指し、さまざまな取り組みを展開してまいります。

計画の推進にあたりましては、「住民・地域・行政」がこれまで以上に協力・連携し、それぞれの役割を果たしながら、顔の見える関係づくりを進めていくことが重要です。まずは、日常の中にあいさつや声かけがあふれ、近隣との小さなつながりや関心によって、普段の何気ない困りごとから緊急時まで、地域全体で支え合える「地域力」を一層高めていきたいと考えております。

計画策定はゴールではありません。基本理念を共有し、その実現に向けた取り組みを継続していくことが大切です。住民の皆様におかれましては、この基本理念の実現に向け、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をお寄せいただきました東海村地域福祉計画推進会議の皆様をはじめ、アンケート調査やパブリックコメント等にご協力いただきましたすべての関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

令和8年3月

# はじめに

---

## 新たな“共生：ともいき”を目指す時代へ —— 東海村の明日へのメッセージ ——

東海村地域福祉計画推進会議アドバイザー  
淑徳大学 教授 稲垣 美加子



現代社会は SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）や AI（人工知能）をいかに使いこなすのか、人々の人生観や社会的な倫理観が個々人に問われる時代になってきています。便利な道具は“非対面”の社会生活を可能にできていますが、本当に便利な道具を使って“おひとり様”スタイルを志向して良いのでしょうか。AI はスイッチをいれて問いかけなければ、語りかけて来ません。家族や友達のように“気配に気が付いて”語りかけてくる（時におせっかい）ことはありません。

無論、見守りセンサーのように、いくつか条件入力をしておけば、それに該当するデータを察知したときには AI 側から働きかけることも可能です。しかし、その場合にも予め用意したバリエーションの範疇でのコミュニケーションになります。本来、人と人が交わすコミュニケーションは喜怒哀楽の多様な感情とそれをコントロールする理性や思考のバランスの中に創造的に醸し出されていくものでしょう。ある意味、想定や想像が難しいもので、だからこそ面白いし想定外の厚みがあります。

長年地域福祉計画の策定のためにお呼びいただき、村の皆さんと知恵を出し合う時、いつも、この面白さや厚みを感じて心温まる思いと敬意を抱いています。毎回の訪村の帰路は胸に温かな賜物が宿ります。地域福祉計画は法令により計画策定が“努力義務”とされている計画で、必ずしも作らなくてはならない計画ではありません。しかし、東海村においてはすでに“第5次”計画の策定を迎えています。そこに村の皆さんの“想い”を感じます。

ここまでの東海村の日々は必ずしも「順調な発展」に支えられてきたわけではないでしょう。東海村 JCO 臨界事故や東日本大震災など、村民の命や生活への危惧に村全体が一体となって挑戦し乗り越えてきた日々があります。私はずっとその歩みの傍らに立たせていただけてきました。そこには最先端の科学技術の開発の拠点として従来の企業城下町の力を活性化する歩みと、伝統文化と豊かな農産物の恵のなかに培われてきた丁寧な暮らしが息づいている様子と、その底力のコラボレーションを拝見してきました。

AIはあくまで道具です。村のこれからの歩みも、便利な道具を賢く活用しながら、それでも愚直に“人”として“ゆっくり”、時に“間違えながら”も温かく、厚みのあるコミュニケーションの中に未来に向けた村づくりが持続することと思います。地域福祉計画の策定には10代から70代の皆さんが参加し、対等に意見交換をしてきました。他の計画策定にない、“共生：ともいき”がすでにそこに萌芽しているような感慨を覚えています。

まだまだ社会の少子化傾向は続き、地域社会の維持には外国籍・多（他）文化の方たちとの共生も避けて通れない課題だと思われまます。そしてそこにはやはりコミュニケーションや相互理解の難しさが存在することと思います。しかし、このような時代にあってもすでに地域福祉計画の策定過程に確認できる“共生：ともいき”の在り方は東海村において、さらなるつながりの創造の可能性を示しているように思います。

常に将来に向けて積極的に新しいものを取り入れながら、古き良きものを大事にしてきた東海村らしく、これからの時代に多様な文化や人々と“共生：ともいき”できる村づくりを持続していただくことを期待しております。

敬愛してやまない東海村の皆さまのご多幸と村の豊かな将来を祈念して。

令和8年3月

# 目次

<b>第1章 計画策定にあたって</b>	<b>1</b>
1. 地域福祉・地域福祉計画・地域福祉活動計画とは	2
2. 計画策定の背景と目的	5
3. 計画の策定方法	8
4. 計画の期間	9
5. 計画の位置づけ	10
<b>第2章 地域福祉を取り巻く東海村の現状</b>	<b>11</b>
1. 統計からみる東海村の現状	12
2. アンケート調査にみられる住民等の意識	25
3. 第4次東海村地域福祉計画の実施状況	44
4. 本計画で取り組むべき課題	44
<b>第3章 計画の基本的な考え方</b>	<b>47</b>
1. 基本理念	48
2. 基本目標	48
3. 施策の体系	50
<b>第4章 施策の展開</b>	<b>51</b>
基本目標1 地域の仲間を増やそう	52
基本目標2 誰もがつながる地域をつくろう	54
基本目標3 すべての人の暮らしと権利を守ろう	56
<b>第5章 計画の推進と進行管理</b>	<b>57</b>
1. 推進体制	58
2. 進行管理	58
3. 計画の推進	58
<b>資料編</b>	<b>59</b>
資料1. 計画策定の経過	60
資料2. 東海村地域福祉計画推進会議設置要綱	61
資料3. 東海村地域福祉計画推進会議委員名簿	63
資料4. 東海村で展開されているさまざまな地域福祉活動	64
資料5. 統計データ	65
資料6 用語解説	85
<b>おわりに ～東海村地域福祉計画推進会議委員からのメッセージ～</b>	<b>87</b>